

## 施策No.27 生涯学習や文化芸術の振興

### 施策の目的

対象	意図
市民	①地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる ②文化芸術に親しむ

### 現状

本市の生涯学習講座には、大口ふれあいセンターで行う中央講座と校区コミュニティ協議会や校区公民館で行う地域講座があります。生涯学習講座の参加実人数は、年々減少していますが、平成20年の市町合併後に生涯学習講座を統廃合し、講座数が減少したことがその一因であると考えられます。受講者は、高齢者や女性が多く、また、講師の確保が難しい状況となっています。

文化芸術に関して、市が実施している自主事業等は少なく、また、参加者も少ない状況となっています。参加者が少ない要因としては、市民のニーズに対応した事業が実施できていないことが考えられます。

一方、演奏家、舞台人、画家、劇団など自ら活動を行う市民や団体が増加したことにより、市民主催事業が増えてきています。

市民意識調査によると、「日頃から地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる」市民の割合は、37.9%となっています。性別で見ると、全体的に女性の割合が高く、中でも30代の男女差が大きくなっています。年齢別にみると、50歳代、80歳代が低くなっています。校区別でも差が生じており、校区コミュニティ協議会の活動状況に関係しているのではないかと考えられます。

「文化芸術に親しんでいる」市民の割合は46.0%で、性別で見ると、男性が44.7%、女性が50.3%と女性の割合が高くなっています。年齢別で見ると、80歳以上は低い傾向にあります。また、校区別でも差が生じています。

「文化芸術に親しんでいる」と答えた市民のうち、「年間に数回親しんでいる」と答えた市民の割合が最も高く、親しむ機会が少ないと考えられます。様々な作品展示や舞台発表の場となる文化協会催しは、年1回開催されていますが、各団体等の主催による発表会等の開催は、舞台照明などの費用負担が大きいことから難しい状況にあります。

### 今後の状況変化

- ・高齢化の進行に伴い余暇を利用した生涯学習に取り組む人が増加するとともに、特に高齢者の生きがい講座等に対するニーズが増加すると予想されます。
- ・高齢化や過疎化の進行により、身近な地域で学習できる環境が求められるようになると予想されます。
- ・インターネットなどの普及に伴い、パソコン等活用できる人は、家庭において自ら学習に取り組むようになることが予想されます。
- ・施設の老朽化に伴う修繕などが必要となり、維持管理経費の増加が予想されます。

### 課題

- ・市民のニーズにあった講座を開催する必要があります。
- ・生涯学習環境の整備（学習・講師の情報、学習機会・場所の提供）を行う必要があります。
- ・芸術文化の発表の場を確保する必要があります。
- ・人材の有効活用や効果的・効率的な催し物を開催するために、芸術文化活動を行う市民や団体の連携を図る必要があります。
- ・各種団体の紹介や活動状況など情報を発信する必要があります。

## 第4章 基本計画 政策5：地域と学び未来に生かす人づくり

### ～施策の方針～

だれもが、いつでもどこでも学ぶことができる環境づくりを行い、自ら学んだことを暮らしやまちづくりに活かす人材を育成します。また、市民が気軽に参加できる文化活動、良質な文化にふれる機会の提供や自主的な文化活動を支援し、文化芸術の振興を図ります。

### 目的の達成度をあらわす指標とその目標値

成果指標	平成21年度現状値	平成27年度目標値 ( )は成り行き値
A 日頃から地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる市民の割合【市民意識調査】	40.1%	43.0% (35.0%)
B 文化芸術に親しんでいる市民の割合【市民意識調査】	48.1%	50.0% (48.1%)

### 目標設定の考え方

A：日頃から地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる市民の割合は、特に30歳代の女性や70歳代の人に取り組む割合が高い傾向があります。今後はこれらの人の人口に占める割合が減少すると予想され、平成27年度における成り行き値は、35.0%を見込みます。目標値は、年齢別で2番目に高い70歳代の人々の水準(44.8%)を参考に、43.0%をめざします。

B：文化芸術に親しんでいる市民の割合は、市民主催事業が増えてきていますが、一方で、既存の団体については、高齢化により活動が停滞する恐れもあり、平成27年度における成り行き値は、平成21年度水準で推移すると見込みます。目標値については、性別でみると高い水準である女性の50.3%を参考に、50.0%をめざします。

### 目標達成に向けた基本的な取組

- 身近な地域で学ぶことができる学習環境づくりを推進します。
- 市民ニーズにあった学習テーマを開設するなど、市民の自ら学ぶ意欲を高める学習活動を推進します。
- 学んだことを暮らしやまちづくりに活かす人材を育成するために、生きがいづくりや趣味・習い事だけでなく、地域課題の解決につながるような学習への移行を図ります。
- 身近なところで、文化芸術に触れる機会の提供や、各種団体の活動状況など情報を発信し、文化芸術活動に取り組むきっかけを作ります。
- 文化施設など文化芸術に触れる環境の充実に努めます。
- 自主的な文化芸術活動を行う市民や団体を支援します。
- 文化芸術団体等に対し市内で開催される各種イベント等の情報を提供し、発表の場を確保します。



市文化祭



生涯学習フェスタ

## 第4章 基本計画 政策5：地域と学び未来に生かす人づくり

### 協働による市民と行政の役割分担

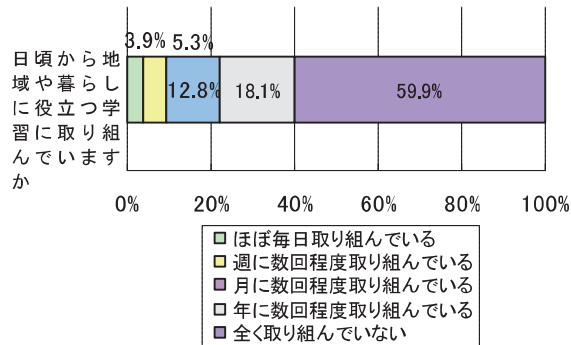
#### 市民（住民、事業所、地域、団体等）の役割

- 市民は、自ら学ぶ意欲を持ち、自主的な取組みを継続して行い、暮らしに生かします。
- 主体的に文化・芸術に興味を持ち、自ら文化・芸術活動を行います。
- 地域は、地域講座等の学習機会や文化芸術鑑賞会等の機会を設け、住民に参加を促します。
- 文化芸術団体は、自主的な活動、運営、事業を行います。

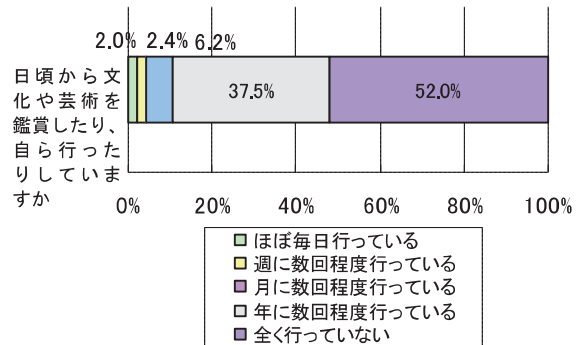
#### 行政の役割

- 身近な地域で学ぶことができる学習環境づくりを推進します。
- 生涯学習の場の提供や、学習内容の充実を図ります。
- 文化協会と連携し、市民が気軽に文化芸術に触れることができる機会を提供します。
- 文化活動を担う人材や文化団体の育成、支援をします。
- 公民館や図書館、文化会館など、市民が利用しやすい環境の整備に努めます。

【日頃から地域や暮らしの向上に役立つ学習に取り組んでいる市民の割合】



【文化芸術に親しんでいる市民の割合】



生涯学習活動



生涯学習活動